

NPO法人ハンサムガーデン農場長

土壤医検定2級 土づくりマスター 松田麻由子

1.1 土壤医検定受験のきっかけ

「土壤医」という言葉を知ったのはちょうど受験日から1年ほど前。土壤医の先輩でもある高谷さんが制作する小農ラジオがきっかけでした。当時は面白そうな資格があるな、という認識程度だったのですが、管理圃場での問題発生をきっかけに知識不足を痛感。土についてもっと知らなければならないと思い、土壤医検定受験に向けて勉強をはじめました。

1.2 学習方法

夏ごろにテキストを1~3級と過去問を取り寄せ、3級受験に向けて学習し始めましたが、もう少し詳しく知りたいと思うようになり、2級テキストに範囲を広げて読み進めました。そのうち2級の内容も理解し始めたので、3級から2級の受験変更を秋ごろに決意します。

前述の小農ラジオのWEB上コミュニティに参加し、同じように受験する仲間と共にお互いに勉強の進捗を確認したり、励ましあったりしたことが学習のモチベーションを維持することにつながりました。また、コミュニティ内では先輩土壤医の方々から○×クイズ形式の音声ファイル、模擬テストや解説のフォローがありました。特に音声ファイルは農作業しながら聞くことができ、100回近く再生しています。

1.3 受験勉強で苦労したこと

高専の機械工学出身のため体系的に化学を習った記憶は中学校まで。生物にいたっては一度も勉強したことがなく、強い苦手意識がありました。実際、農園の生産管理については得意ですが、施肥設計や化学性の評価については代表に任せきりで自分から積極的に学ぶことはありませんでした。今思えば、手持ちの農業書は10冊以上あるものの、ごく基本的なこともしくは各論に寄りすぎているものが多く、土壌について体系的な学習ができるものではなかったです。

2.1 受験当日

奈良県在住のため受験会場は大阪(工ル大阪)となりました。2棟かつ複数階に会場が分かれており、受験者やビル自体に訪れる人も多く、緊張していた私は会場を少し迷いました。2級は60分60問のため、1問1分しか考え回答する時間がありません。時間切れでの空欄解答を避けるため、迷った箇所も一旦塗りつぶしておき、時間に余裕ができれば見直すという方

法をとりました。その結果45分で60問を終えることができ、残りの15分を使って見直しを行いました。

2.2 受験後の様子

受験勉強を通じて気づいたこと、変わったことがいくつかあります。

1)正しく理解していなかったことに気づいた

肥料や土壌改良材について間違っ理解していたことが多々ありました。有機栽培だから必要ないと、慣行肥料について理解を深めていなかったことにも気づきました。

2)栽培について議論できるようになった

当農園の代表と近いレベルで議論できるようになりました。また普及指導員へもよりのを得た質問ができるようになったと思います。

3)勉強する習慣ができた

農作業で忙しくても時間を作り勉強する習慣ができました。勉強する楽しさと幸せを感じています。

4)仲間ができた

土壌医検定受験という共通目標に向かう仲間ができました。みんなで勉強する、ということがこれほど貴重な経験であることに学生時代は気づけなかったことでした。

3 今後の展望

当団体のコンセプトに「農事修学の場の創出」があります。クラーク博士招聘から始まる日本の近代農業の発展には常に農事修学の場がありました。まだまだ分からないことの多い土壌と植物に対峙しながら、しかも環境に大きく左右される農業の面白さは毎年同じようにならないこと。農あるところに学びあり、土に触れることができる限り現場で学び続けたいと思います。

最後に、受験を強力にサポート下さった土壌医の方々と仲間たちに感謝いたします。



NPO法人ハンサムガーデン

奈良県宇陀市 栽培面積 露地3.6ha (有機JAS圃場)

栽培品目 非結球レタス、人参、白菜、キャベツ ほか